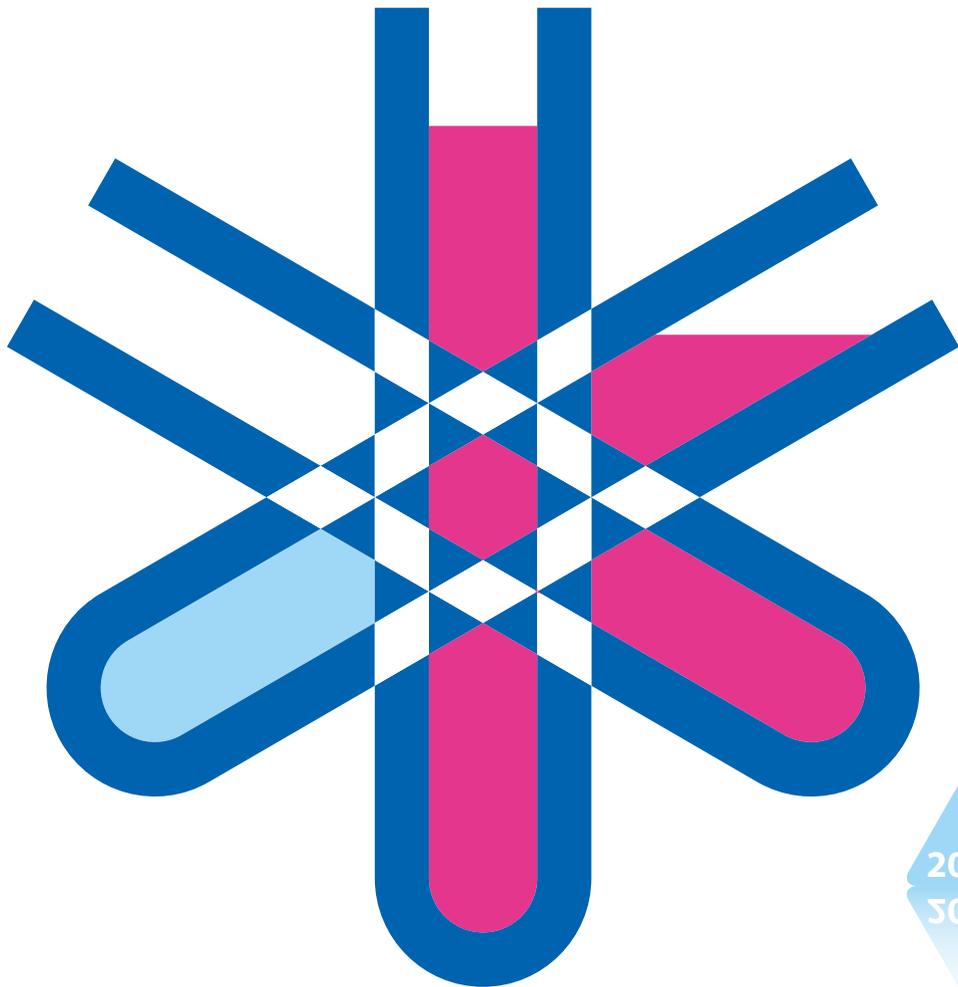


横查情報月報



横浜市衛生研究所

令和6年2月号 目次

【検査結果】

年末食品収去検査結果（令和5年度）	1
-------------------------	---

【情報提供】

衛生研究所ウェブページ情報（令和6年1月）	3
-----------------------------	---

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査報告*（令和6年1月）	4
----------------------------	---

* この記事では主に、医療機関向けの情報を提供しています。

感染症発生動向調査は感染症法に基づく国の事業です。本事業に関する詳細は、「感染症発生動向調査とは」（下記URL）をご参照ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/doko/systemgaiyo.html>

年末食品収去検査結果（令和5年度）

年末食品等一斉点検事業は、厚生労働省から出された通知に基づき、食品流通量が増加する年末の食中毒等の事故防止と食品衛生の確保を目的として全国一斉に実施されるものです。

本市においては、令和5年11月1日から12月28日までを重点監視期間と定め、一斉点検を行いました。期間内に医療局食品専門監視班と各区福祉保健センターが収去し、当所が行った検査の結果について報告します。

1 食品添加物検査

搬入された菓子類や酒精飲料など133検体（輸入品109検体、国産品24検体）の食品について、保存料、着色料、酸化防止剤など2,445項目の検査を実施しました（表1）。

その結果、日本では使用が認められていない酸化防止剤（TBHQ）が検出された輸入菓子（油菓子）1検体と同じく日本では使用が認められていない着色料（アミノカルミン酸）が検出された輸入菓子（キャンディー）1検体を発見しました。

これらは、担当福祉保健センターが輸入者を所管する自治体に調査等を依頼しました。

表1 食品添加物検査

令和5年11月～12月

食品区分	検体数	違反検体数	項目数	検査項目						
				保存料	着色料	甘味料	酸化防止剤	漂白剤	発色剤	その他
肉卵類及びその加工品	2	0	8	6	-	-	-	-	2	-
穀類及びその加工品	14	0	87	9	51	4	2	1	-	20
野菜類・果物及びその加工品	14	0	236	52	153	24	1	6	-	-
菓子類	45	2	945	123	631	109	82	-	-	-
清涼飲料水	4	0	100	40	51	9	-	-	-	-
粉末清涼飲料	9	0	184	27	136	21	-	-	-	-
酒精飲料	16	0	320	73	204	28	15	-	-	-
かん詰・びん詰食品	11	0	183	33	119	15	14	2	-	-
その他の食品	18	0	382	79	260	36	7	-	-	-
合計	133	2	2,445	442	1,605	246	121	9	2	20

【 理化学検査研究課 食品添加物担当 】

2 細菌検査

細菌検査の内訳は、洋生菓子・冷凍食品・清涼飲料水など34検体79項目でした(表2)。

検査の結果、規格基準*1違反はありませんでした。

検査結果については、収去を実施した食品専門監視班及び各区福祉保健センターに報告しました。

*1 規格基準とは、食品及び添加物について食品衛生法第11条により基準、規格を定めたものことです。

表2 細菌検査結果

令和5年11月～12月

食品区分	検査 検体数	検査 項目数	違反 検体数	違反理由
菓子類				
洋生菓子	12	36	0	
冷凍食品				
無加熱摂取冷凍食品	1	2	0	
凍結直前に加熱された加熱後摂取冷凍食品	1	2	0	
魚介類加工品				
冷凍ゆでがに	1	3	0	
ゆでがに	2	2	0	
肉卵類及びその加工品				
非加熱食肉製品(サラミ等)	2	8	0	
乳製品				
ナチュラルチーズ	2	2	0	
清涼飲料水				
清涼飲料水	3	3	0	
ミネラルウォーター(殺菌又は除菌無)	1	3	0	
粉末清涼飲料				
粉末清涼飲料	9	18	0	
合 計	34	79	0	

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所ウェブページ情報（令和6年1月）

横浜市衛生研究所ウェブページは、平成10年3月に所独自のウェブサイトとして開設されました。現在は、本市ウェブサイトと統合され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報を提供しています。今回は、当ウェブページにおける令和6年1月の追加・更新記事について報告します。

1 追加・更新記事

令和6年1月に追加・更新した主な記事は、5件でした。

掲載月日	内容
1月9日	横浜市インフルエンザ流行情報 16号 横浜市感染症臨時情報(咽頭結膜熱 第52週)
1月18日	横浜市インフルエンザ流行情報 17号
1月25日	横浜市インフルエンザ流行情報 18号
1月30日	横浜市衛生研究所における新型コロナウイルスの全ゲノム解析結果

2 記事紹介

横浜市インフルエンザ流行情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/rinji/influenza-rinji-2023.html>

横浜市感染症臨時情報(咽頭結膜熱)

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/rinji/pcf.html>

横浜市衛生研究所における新型コロナウイルスの全ゲノム解析結果

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/byogentai/covid-19genome.html>

【 感染症・疫学情報課 】

横浜市感染症発生動向調査報告（令和6年1月）

《今月のトピックス》

- インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎が増加しています。咳エチケットや手洗いなど、基本的な感染対策を心がけましょう。
- 感染性胃腸炎が多く発生し、集団感染の報告数も増加しています。
- 梅毒は20歳代～50歳代を中心として多く発生しており、注意が必要です。

◇ 全数把握の対象 <2024年1月期に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	3件	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	3件
E型肝炎	3件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3件
A型肝炎	2件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
デング熱	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	9件
レジオネラ症	3件	水痘(入院例に限る)	1件
アメーバ赤痢	4件	梅毒	21件
ウイルス性肝炎	1件	百日咳	1件

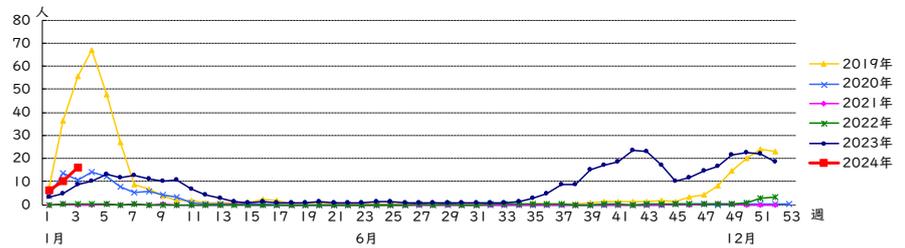
- 1 **腸管出血性大腸菌感染症**:50歳代～70歳代で、血清群O157が2件、血清群不明が1件です。いずれも感染経路等不明です。
- 2 **E型肝炎**:30歳代～80歳代で、経口感染と推測される報告が2件、感染経路等不明の報告が1件です。
- 3 **A型肝炎**:50歳代及び80歳代(ワクチン接種歴無1件、不明1件)で、いずれも経口感染と推定されています。
- 4 **デング熱**:10歳未満と30歳代で、いずれも蚊からの感染(海外)と推定されています。
- 5 **レジオネラ症**:70歳代～80歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- 6 **アメーバ赤痢**:40歳代～60歳代で、性的接触(同性間)と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が3件です。
- 7 **ウイルス性肝炎**:30歳代で、ウイルス型はB型(ワクチン接種歴無)、性的接触(同性間)と推定されています。
- 8 **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:70歳代～90歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- 9 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:50歳代～70歳代で、いずれも血清群はA群で、創傷感染と推定される報告が1件、接触感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
- 10 **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:70歳代(ワクチン接種歴不明)、飛沫・飛沫核感染と推定されています。
- 11 **侵襲性肺炎球菌感染症**:20歳～90歳代(ワクチン接種歴2回1件、無4件、不明4件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が4件、感染経路等不明の報告が5件ありました。
- 12 **水痘(入院例に限る)**:60歳代(ワクチン接種歴不明)で、接触感染と推定されています。
- 13 **梅毒**:10歳代～60歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期9件、早期顕症梅毒Ⅱ期6件、無症状病原体保有者が6件です。性的接触による感染と推定される報告が18件(異性間16件、同性間1件、詳細不明1件)、感染経路等不明の報告が3件ありました。
- 14 **百日咳**:10歳未満(ワクチン接種歴4回)で、感染経路等不明です。

◇ 定点把握の対象

報告週対応表		
2023年	第51週	12月18日～12月24日
	第52週	12月25日～12月31日
2024年	第1週	1月1日～1月7日
	第2週	1月8日～1月14日
	第3週	1月15日～1月21日

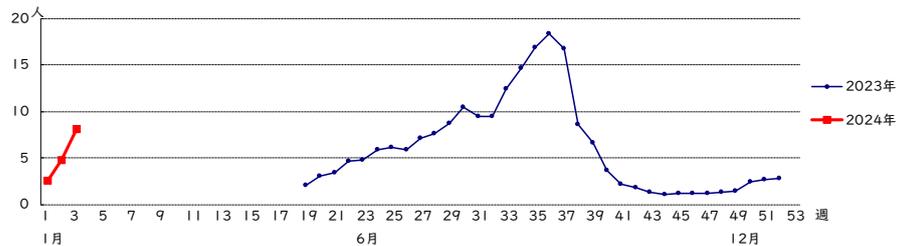
1 インフルエンザ

2023年第39週に流行注意報発令基準値(定点あたり10.00)を上回りました。第45週以降、再び増加傾向に転じ、第3週は15.86です。詳細は、横浜市インフルエンザ流行情報18号をご覧ください。



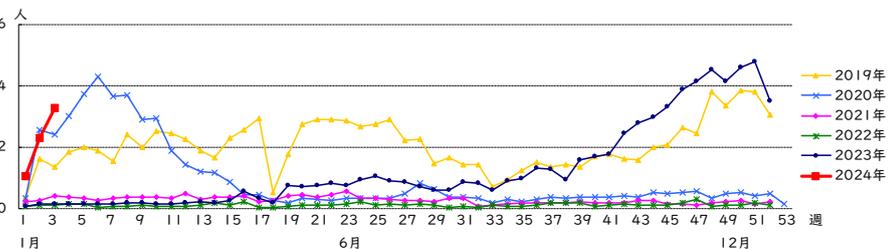
2 新型コロナウイルス感染症

2023年5月8日(第19週)より定点報告となりました。第47週以降再び増加傾向に転じ、第3週は8.09です。



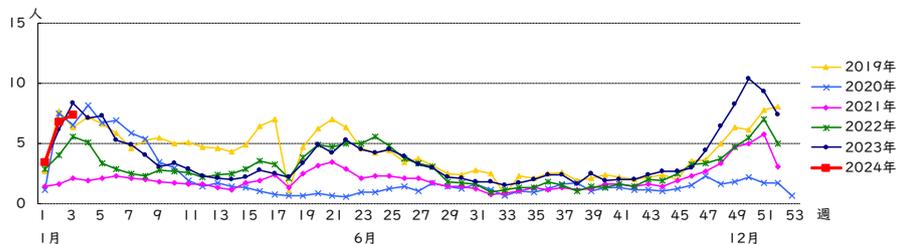
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第39週以降増加傾向が続き、第3週は3.28です。過去5年間の同時期と比較し多くなっています。



4 感染性胃腸炎

第41週以降増加傾向が続き、第47週以降の増加が顕著です。第3週は7.40です。



5 性感染症(12月)

性器クラミジア感染症	男性:36件	女性:15件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:6件	女性:10件
尖圭コンジローマ	男性:11件	女性:5件	淋菌感染症	男性:23件	女性:2件

6 基幹定点週報

	第51週	第52週	第1週	第2週	第3週
細菌性髄膜炎	0.00	0.33	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.75	0.00	0.00	0.5	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

7 基幹定点月報(12月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	13件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

1月期(2023年第51週～2024年第3週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点37件、内科定点13件、基幹定点4件でした。

2月5日現在、表に示した各種ウイルスの分離35株と遺伝子3件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果 (2023年第51週～2024年第3週)

主な臨床症状等 分離・検出ウイルス	イン フル エン ザ	上 気 道 炎	下 気 道 炎	咽 頭 結 膜 熱	感 冒	中 耳 炎
インフルエンザウイルス AH1型pdm09	10 -	-	1 -	-	-	-
インフルエンザウイルス AH3型	14 -	1 -	-	-	-	-
インフルエンザウイルス B型(ビクトリア系統)	1 -	-	-	-	-	-
アデノウイルス 3型	-	4 -	-	1 -	1 -	1 -
ヘルペスウイルス 1型	-	1 -	-	-	-	-
ヒトコロナウイルス OC43型	-	- 1	-	-	-	-
ヒトメタニューモウイルス	-	- 1	-	-	-	-
ライノウイルス	-	-	- 1	-	-	-
合計	25 -	6 2	1 1	1 -	1 -	1 -

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

1月期(2023年第51週～2024年第3週)の「菌株同定」の検査依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌目細菌3件、サルモネラ属菌2件、リステリア菌2件、シュードモナス属菌1件でした。非定点からの依頼はありませんでした。保健所からの依頼は、腸管出血性大腸菌3件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌3件、劇症型溶血性レンサ球菌1件、侵襲性インフルエンザ菌1件でした。

「分離同定」の検査依頼は保健所からレジオネラ属菌1件でした。

「小児サーベイランス」の検査依頼は咽頭炎、咽頭痛1件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2023年第51週～2024年第3週)

菌株同定		項目	検体数	血清型等
医療機関	基幹定点	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌	3	<i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)、 <i>Escherichia coli</i> (2)
		サルモネラ属菌	2	<i>Salmonella enterica</i> subsp. <i>enterica</i> 型別不能 (1)、 <i>Salmonella</i> Stanley (1)
		リステリア菌	2	<i>Listeria monocytogenes</i> (2)
		シュードモナス属菌	1	<i>Pseudomonas hydrolytica</i> (1)
保健所		腸管出血性大腸菌	3	O157:H7 VT1 VT2 (2)、O157:H7 VT2 (1)
		カルバペネム耐性腸内細菌目細菌	3	<i>Klebsiella aerogenes</i> (1)、 <i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)、 <i>Enterobacter cloacae</i> complex (1)
		劇症型溶血性レンサ球菌	1	A群溶血性レンサ球菌 (1)
		侵襲性インフルエンザ菌	1	<i>Haemophilus influenzae</i> (1)
分離同定	材料	項目	検体数	同定、血清型等
保健所	喀痰	レジオネラ属菌	1	培養陰性 (1)
小児サーベイランス	材料	臨床症状	検体数	同定、血清型等
小児科定点	咽頭ぬぐい液	咽頭炎、咽頭痛	1	A群溶血性レンサ球菌 TUT 陽性 (1)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】